

<安全衛生マネジメント学領域について>

指導教員：河村 洋子

安全衛生マネジメント学は、現実の産業現場における有害要因を見つけ出し、労働者に対する影響を評価し、防止対策を策定するための理論や手法を研究する領域である。「特論」では、有害要因のリスクアセスメント・リスクマネジメントに関する専門技術・理論や研究方法を教育し、「演習」では、事例検討や机上演習を通して、職場の有害要因と労働者への健康影響を的確に判断して、有効な対策を考案できる能力を修得させ、「実習」では、産業現場におけるフィールド調査を行い、具体的なリスクアセスメント・リスクマネジメントの実践学習と問題解決能力の獲得を目指す。「論文指導」では、研究課題の設定に続いて、文献調査の手法、統計的な検討、研究倫理などについて教示し、安全衛生マネジメント学領域及び関連の深い周辺領域の実践について熟知させる。そのうえで、主体的な探求、発想、思考、分析によって専門領域における研究課題の探求能力を修得・実践させ、研究論文を完成させる。この領域の特色は、産業現場の複合した有害要因を幅広く捉え、有効に労働者を防護する多面的な対策を考案するところにある。

この科目を通して、実際の産業現場の有害要因から労働者を保護するための実践課題を抽出し、解決策を考案することができる能力を付与する。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

安全衛生マネジメント学領域では、以下の研究テーマを想定しています。

安全衛生マネジメント学研究室(河村洋子教授)が中心となって指導する研究

- 大きな方向性としては、具体的な方法論としてポジティブ・ディビアンス、エンターテインメント・エデュケーション／ナレティブアプローチ、リベレイティング・ストラクチャーズを活用し、個人と組織の変化・変革を促す方法論に関する研究
- 上記以外の方法論に限らず、以下のようなより広義の内容も対象とする
 - 職域保健現場の集団的アプローチによる安全と健康に関する行動の促進
 - ワークモチベーションや生産性向上のためのコミュニケーション戦略（グループファシリテーション、共学的アプローチなど）
 - 組織構造や組織コミュニケーションのタイプと個人のワークモチベーションや生産性などとの関連

※研究手法については、定量・定性・混合型など問いません。

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、

2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。
以下の項目のうち、2つ以上の項目を満たすこと。

- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。
- 定量、定性、混合型などの研究手法を理解している、あるいは自己学修意欲が高い。
- 何らかの学術論文を執筆、あるいは学会発表をした経験がある。

問い合わせ先：安全衛生マネジメント学 代表メールアドレス
j-2knkyo@mbox.health.uoeh-u.ac.jp